

学術奨励賞表彰制度ができました

田中 英夫 協議会理事：学術委員会担当

愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部 部長

前回のニューズレターNo29において、私は学術委員長の見地から、学術委員会の活動として4つの取り組みを提案しました。その中の1つが、がん登録資料を活用した研究者の研究活動を奨励する目的での学術奨励賞を平成24年度に設置することでした。この案件はその後理事会で承認され、昨年12月10日に協議会ホームページの到着情報に募集案内が掲載されました。

表彰の対象者は、当該年の1月1日時点で満50歳以下の人で、対象となる学術の分野は、

1. 日本の地域がん登録資料を活用したがんの記述疫学研究。集計データの二次的活用を含む。がん対策の企画、評価に関する研究を含む。他国との比較共同研究を含む。
2. 地域がん登録事業および同資料を活用したがんの疫学研究を解析技術面、登録精度面、システム技術面、法社会科学面で支える研究。
3. 日本の地域がん登録資料に関連するデータ(がん死亡統計、院内がん登録資料など)を用いた研究のうち、特に優れた研究。
4. 日本の地域がん登録資料を活用した、がんの分析疫学研究のうち、特に優れた研究。

となっています。

学術委員などから成る選考委員が応募者の中から1名程度を選び、その年の協議会学術集会において表彰式を行います。受賞者にはその時に記念講演をしていただきます。

地域がん登録事業は現在45の道府県で実施されるに至りました。この10年間でこの事業を実施する県が10県以上も増えたのは、事業の立ち上げの際に、がん登録に精通する研究者・技術者が、県の枠を越えて技術支援や人材育成の支援をしたことによることだと思います。また、この事業が各県のがん対策の立案・評価・推進に真に役立つようになるためには、このような県の枠を越えた技術支援や人材育成支援が、今後も引き続き必要なことは明らかです。

この表彰制度によって、人材を育成できる人材がこの分野に参入することが促され、がん登録資料の研究的利用の促進が図られ、日本のがん対策が一層進むことを願います。

第20回学術集会開催報告

三上 春夫 第20回学術集会会長

千葉県がんセンター研究局がん予防センター

地域がん登録協議会第20回学術集会は平成23年9月14日から15日にかけて、千葉大学けやき会館(千葉市稲毛区)で開催されました。全国47都道府県での地域がん登録の実施を視野にとらえ、集会テーマは「がん登録のマイルストーン」とさせていただきます。プログラム初日、9月14日にはがん登録担当者研修会と情報交換会が行われ、各々143名と97名が参加されました。また第2日学術集会には全国より161名、2日間を通じ計187名のご参加を賜り盛会のうちに終了させていただきました。

春の東日本大震災と福島原発事故の大災害は地域がん登録にも甚大な影響をもたらしたことから、プログラムにも今後の課題として反映させることにいたしました。研修会では大規模災害に対応した分散データ保管、地域がん登録を用いた小児がん長期フォローアップ、学術集会では放射線疫学のシンポジウムを企画し、普段交流の少ない当該分野の研究者の先生方をお招きして話題提供をお願いしました。

15日昼のポスタービューイングでは19演題のご発表を賜り、最優秀賞1題、優秀賞2題が選出されました。最優秀賞は課題名「外科治療成績改善に伴う肺がん生存率の向上」で小池輝明先生(新潟県立がんセンター)に、優秀賞は「X線胃がん検診のリスクと利益を再評価する」茂木文孝先生(群馬県健康づくり財団)と、「大阪府のがん罹患数・死亡数将来推計」歌田真依先生(大阪大学大学院医学研究科)に決まりました。

2011年春浅い3月11日に未曾有の広域大災害、東日本大震災と引き続き福島第1原発の事故が発生しました。事故による放射能汚染事故を受け、将来の健康被害を把握するためのがん登録の意義をふまえて学術集会声明を採択致しました。声明は、広域がん登録の必要性、小児がん研究への貢献、がん医療の質の把握に向けて、地域がん登録資料の活用を訴える趣旨となりました。声明の発表にはプレス4社が取材に見え、全国に報道されました。また今回、協議会非加盟県から福島県1名(県立医大)を含め19名(福島・埼玉・東京・三重・愛媛・福岡)のご参加をいただいたことも意義深いことでした。